

みづみづの神楽

国立能楽堂公演

桂神楽

2025年10月29日(水) 13時30分 開場 12時30分 — 17時45分

主催：宮崎県 共催：諸塚村 後援：藝能学会

Kagura of Miyazaki

National Noh Theatre / 2025, October 29 wed.

KATSURAKAGURA



みやざきの神楽 桂神楽

いあごわり

桂神楽の起源については明らかではありませんが、桂村の始まり、特に桂正八幡神社との深い関わりがあるものと思われます。桂正八幡神社は南北朝時代（1336～1392年）に關東かつらぎの国より勧請したと伝えられております。桂神楽は俗に「かつらぼうり」とよばれて高千穂の莊と呼ばれた現在の西臼杵や東臼杵郡の諸塚村や椎葉村、熊本県の蘇陽町等広い地域で伝承されていたと伝えられております。

大神楽（夜神楽）は宮遷宮や神殿の改築、お日待ちの願成就と言った時に限って奉納されておりますが、その開催は不定期となります。普段は、諸塚神社の春・秋の祭りや矢村正一位稲荷神社の例祭に、神楽3番が奉納され、また、桂正八幡神社の例祭には、神楽3番と願成就神楽、旧暦初午祭りには、稲荷神楽が奉納されています。いずれも昼神楽のみの奉納となり、今回の演目は5年ぶりに舞う事になります。

今回は、「諸塚神楽の国の重要無形民俗文化財指定と、ユネスコ無形文化遺産登録」を祈念して奉納する事となりました。

本日も参集いただきました皆様方の、安全と健康をご祈念申し上げます。

桂神楽保存会一同



宮崎県東臼杵郡
諸塚村

宮崎県は「古事記」や「日本書紀」に描かれた日向神話の舞台として知られ、神話ゆかりの伝承と共に、現在も200を超える神楽が伝承されています。各地の暮らしや風土を色濃く反映しながら大切に伝え継がれる神楽は、みやざきの「宝」であり、日本固有の無形民俗文化財としても多くの関心を集めています。



プログラム

- | | | | |
|--------|----------------------------------|--------|---|
| 13時30分 | 主催者挨拶 | 15時10分 | 休憩 |
| 13時35分 | 基調講演
「大館真晴」 | 15時30分 | 共演者挨拶 |
| 14時00分 | 神楽公演（前半）
神事
神楽解説
「小川直之」 | 15時35分 | 神楽公演（後半）
神楽解説
●お大神
●かんずい
●座はり |
| | | | ●座はり |
| | | | 保存会挨拶 |
| | | | 終演 |



基調講演

「神楽歌の魅力について」

宮崎県立看護大学教授

大館真晴

Odate Masaharu



神楽解説

國學院大學名誉教授

小川直之

Ogawa Naoyuki

國學院大學大学院博士課程修了。博士（文学）。専門は日本上代文学。著書に『神話の源流をたどる 記紀神話と日向』（共著、株式会社KADOKAWA）など。宮崎県のみやざきの神楽魅力発信委員会委員をつとめ、宮崎の神楽の魅力や日向神話の魅力を発信している。

専門は「民俗学」。文部科学省文化審議会専門委員、無形文化遺産保護条約に関する特別委員会委員などを歴任。現在は、宮崎県のみやざきの神楽魅力発信委員会委員長として、みやざきの神楽の保存継承や魅力発信に携わる。独立行政法人日本芸術文化振興会評議員や南信州民俗芸能継承推進協議会アドバイザー、中国の南開大学客員教授などを務める。

宮神楽 Miyakagura

「宮神楽」とは集落の祈願によって舞われ、土地の霊を鎮め、神前を清める神楽である。神社境内（拝殿前）の四方に櫛を立て結界を張る。素面の二人舞。装束は烏帽子に舞衣で、採り物は鈴と扇。



荒神の言い句 Kojin no iiku

神社に背を向ける形で、二荒神が俵に座し、祭りを司る神主役との問答を行う。二荒神は、先住神にして土地の主である「山の神（地主荒神）」と「火の神（竈荒神）」であるとされる。荒神の支配する土地に入り込み、無断で建物（御宮など）を建立したことに腹を立てているのである。神主は建立の理由を述べ、神楽の奉納を願い出る。問答の末、酒を酌み交わし杖を譲り受け、荒神の許しを得ることができる。



お大神 Odaijin

祝子全員でつとめる舞で、約3時間を要する壮大な番付である。全11曲で構成され、1曲ごとに祝子が入れ替わり、採り物を鈴、花（櫛）、御幣、膳、扇など様々に替え舞う。伊勢天照大神のいわれを説く神楽となっており、唱教（歌）の中でその本義が唱えられる。



かんずい Kanzui

「かんずい」は県内で多く舞われている刀舞である。「神随」「神垂」など様々な漢字が当てられ、高千穂神楽では「岩潜り」と表される。素面の五人舞で、装束は鉢巻きに宝冠（後頭部の切り紙）、白衣に櫛掛け、結び目にスミトリ紙と呼ばれる御幣を付けて舞う。先陣を切る太刀持ちは、続く4人の舞手が鈴と刀を手に舞い入ると、退場する。後半は「潜り」の舞から一人舞となる。終始アクロバティックな舞いである。



座はり Zahari

桂神楽の主祭神「八幡様」の登場である。「とうせい」「杉のぼり」とともに「桂神楽式三番」として例祭の折などに奉納される。八幡様の装束は冠、白衣に櫛掛け、腰に刀を帯び、採り物は扇と面棒で舞う。素面の舞い出し（面連れ・合舞）に導かれ、八幡様は神前に座す。舞い出しが退くと、八幡様の一人舞となり、開扇を仰ぎ歌を歌う。



社人（出演者） 桂神楽保存会

梅田義輝 甲斐善行
中矢信一 菊池亀代人
村崎松美 中矢修
甲斐秀樹 大野輝也
藤田三徳 菊池大輔
尾川林 藤田陽太郎

岩本晋乃助
山本八千代
岩本依歩

世界のKAGURAへ。

日本の神楽を、



《「神楽」のユネスコ無形文化遺産登録を目指して》

KAGURA:TOWARD UNESCO INTANGIBLE CULTURAL HERITAGE

日本各地で奉納される神楽は、その地の“祀り”であり、“祭り”です。
受け継がれた歴史の縦糸と、共生する絆の横糸で紡がれた地域特有の文化。

今も4,000を超える地域に伝承されている神楽は、
日本を代表する民俗芸能として世界から注目されています。

全国神楽継承・振興協議会

National Kagura Succession and Promotion Council



<https://www.miyazaki-archive.jp/kagura/>

全国の神楽の解説やイベント情報等を発信しています。

みやぎの神楽サポーター認定企業

イー・アンド・エム株式会社

有限会社ファスニング機工

イオン九州株式会社

私たちは「みやぎの神楽」を応援しています。